



JEG ニュースレター 153号

www.jegschweiz.com

2015年11月29日発行

小さな証

「わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」の聖句とともに生きた筆者の証。P2

新会堂での説教

マイヤー牧師の旧約聖書人物シリーズが始まり、11月22日の説教で、はや6話となりました。P3

牧師就任

今年の9月、シュトゥットガルト日本語教会に新牧師が与えられました。南ドイツに若い息吹を感じます。P6

宣教師からの便り

日本と日本人を愛して各地でリバイバルのために半生を捧げる日欧宣教師からの便り。P4から

小さな祈り

天の父なる神さま、冬の訪れに、寒さと飢えに、迫害とテロに耐え忍ぶ、中東の兄弟姉妹に、速やかに支援の手が届きますように、あなたの護りと恵みがありますように、。。



互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。

ガラテヤ人への手紙 6：2

ミッション特集

時代の閉鎖感に覆われる祖国日本。キリスト者が人口の1%以下と言われる硬い土壤に、キリストにある希望と愛を伝え、福音の種を蒔く営みは、ひとり宣教師が負うものではなく、罪赦されたキリスト者全てが負う神さまへの責務でしょう。



ちいさな証

人生のすべてを主に委ね

中村マヌエラ

スイス日本語福音キリスト教会会員



Mein Lieblingsvers aus der Bibel ist seit meiner Kindheit Matthäus 28, 20: *Und das sollt ihr wissen: Ich bin immer bei euch, jeden Tag, bis zum Ende der Welt.*

In einem christlichen Elternhaus geboren, ging ich schon von klein auf zur Kirche und in die Sonntagschule, später auch in den Unterricht und wurde dann konfirmiert. In meiner Teenager Zeit wusste ich zwar immer in meinem Herzen, dass Jesus bei mir ist, aber oft waren mir andere Dinge wichtiger.

Als ich nach der Lehre anfing, in der Stadt zu arbeiten und auch dort wohnte, waren Ausgang und Spass an die erste Stelle gerückt.

Nach einem Jahr jedoch merkte ich, dass das zwar ganz lustig ist aber keinen Sinn macht und dass ich so nicht weitermachen wollte.

Ich entschied mich, ab Herbst 2003 in Neuseeland eine christlich geführte Sprachschule zu besuchen. Dort änderte sich vieles.

Ich fand Jesus wieder neu, ging wieder regelmässig zur Kirche und war umgeben von Christen. Auch traf ich Yuji und wir wurden ein Paar.

Wieder zurück in der Schweiz, wollte ich mein Leben ganz auf Jesus setzen und liess mich schliesslich 2005 taufen. Die Beziehung zu Yuji wurde einige Male auf die Probe gestellt, doch es gab immer einen Weg.

Auch nach der Hochzeit durchlebten wir einige schwierige Zeiten und wussten manchmal nicht, wie es weitergehen soll, aber gerade in diesen Zeiten durften wir Jesus erleben und an diesem Spruch festhalten.



子供の頃からの私のお気に入りの聖書箇所は、マタイ28章、20節です。

「わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

私はクリスチヤンの家庭に生まれ、幼いころから教会、日曜学校へ通っていました。10代の時には、私の心の中にはいつもイエス様がおられると感じていましたが、しかしそのころはしばしば他のことを重要視していたように思います。

職業学校が終わってから、街で働くようになり、またそこに一人で住むようになりました。夜は外出し友達と過ごすということが自分にとってとても楽しい時間でした。1年ほどそのような生活をした後に、そのような生活も面白いけれども、全く意味がないことに気が付きました。またそのような生活を続けたいとは思いませんでした。

そして私は何かを変えようとニュージーランドへ行くことに決めました。そしてクリスチヤン系の語学学校を選びました。

ニュージーランドでは多くの変化がありました。定期的に教会へ通うようになり、クリスチヤンの友達が多くできました。そしてイエス様は私に何かを与えてくださいました。そこで今の主人のユウジと出会い、私たちは付き合うようになりました。

スイスに戻り、私は人生のすべてをイエス様に委ねることを決め、2005年に洗礼を受けました。ユウジとの関係はとても難しい時が何度もありましたが、イエス様がいつも導きの道を与えて下さいました。

結婚後でも私たちは何度も難しい時間を過ごし、時にはどうして良いのか分からない時もありましたが、その時その時にイエス様は私たちの中におられ、イエス様を心から感じる事ができました。そしていつもこの聖句が私たちを勇気づけ助けて下さいました。今後もイエス様とともに歩んでいきたいと思えます。





1、スイス日本語福音キリスト教会は、今年9月に会堂をウスター市からデューベンドルフ市へと移し、創立22周年記念日となる11月22日には、第6回目の礼拝を捧げる幸いを得ました。

会堂移転を機に始まったマイヤー牧師の「旧約聖書人物シリーズ」は、アダム、ノア、アブラハム、ヤコブ、ヨセフと続いています。

11月22日には創世記のなかで最も詳しく劇的な人生が記された「ヨセフ」が取り上げられ、「試練を通じて栄光への道」をテーマに、マイヤー牧師がみことばを解き明かされました。

神の御子イエスの「型」としてのヨセフは、度々の試練を経て獄に入り、その後エジプトの宰相にまで抜擢され、「神が共にいてくださった」ことで、大いに祝福され、栄光への道へと上げられました。ヨセフに起きたことが、イエスにも起きたわけです。そしてイエスに起きたことは、クリスチャンにも起きます。そのスリリングなヨセフの生涯から私たちは現代生活への適用を学びました。

マイヤー牧師のメッセージ（日独語）は、スイス日本語キリスト教会の説教専用のサイトでお聴きいただけます。<http://jeg.meielisalp.ch>

2、貧困と闘うルーマニアの人々へ、降誕節の時期、愛を込めて日常必需品を贈る運動は「東方への光」と呼ばれ、長年、教会を中心に続けられてきました。今年も、スイスJEGの有志によって「東方への光」のために集められたプレゼントの箱と献金がVOLKETSCHWILにある収集所へ11月14日に届けられました。



スイスJEGのような小さな群れからも、プレゼント10個と献金250フランが届けられた事によって、神様への愛を形に出来て感謝でした。特に子供達は、この働きに参加して、福音とともに暖かい心をプレゼントに込めてくれました。



3、第9回教職者研修会が、10月26日から29日まで、南ドイツリーベンツェルにて開催され、マイヤー牧師も出席されました。今年、新しく日本語教会の牧師に就任された先生方も加え19名の参加者があり、欧州における邦人宣教のための連携と絆を強める営みと交わりは、豊かに祝福されました。



4、10月9日（金）から11日（日）まで、バート・リーベンツェルのハウス・バーテルを会場に、フランクフルト日本語福音キリス

ト教会の修養会が「キリストのまなざしが注がれて」をテーマに開催されました。矢吹牧師が福音書のイエス・キリストのまなざしがどのようなとき、誰に注がれたのかを4回のメッセージによって語られました。



修養会には、フランクフルトの他、スイスやシュトゥットガルトの皆さんも参加してくださいました。ゆったりとしたスケジュールの中で、特にメッセージのあとの分かち合いが素晴らしく、みことばの豊かさと深さとをじっくりとおぼえ合う時を持つことができました。

今回は、第2日曜日にかけての開催で、スイスの方々には参加しにくい日程であったことを踏まえ、来年の開催スケジュールは10月14（金）－16日（日）に同じ会場となりしました。すでに来年のテーマについては牧師の心の中で温められています。今から予定に加えてぜひご参加ください。

また、スイス日本語福音キリスト教会のマイヤー牧師ご夫妻も駆けつけてくださいました。本当にありがとうございました。

フランクフルト日本語キリスト教会牧師 矢吹

5、シュトゥットガルト日本語教会主催の「聖書の週末」が、10月30日から11月1日まで、紅葉の美しい風景の中、来年のヨーロッパ・キリスト者の集いの会場であるザーベルシュタインにて、特別講師にミラノ賛美教会の内村伸之牧師をお迎えし開催されました。スイスJEGからも参加者があり、祝福された週末となりました。



内村伸之牧師による「レンブラントの絵画から紐解く聖書」というテーマから、「本物の価値観で生きる」「罪人に走り寄る愛の神」「待っている父の物語」という題で、3回の講演を聴くことが出来ました。日曜日の主日礼拝では、9月に就任されたばかりのシュトゥットガルト日本語教会の浅野康牧師より「恐れるな」と言う力強いメッセージを語っていただきました。シュトゥットガルト日本語教会の兄弟姉妹とみことばから学ぶ豊かな週末の時を過ごす事が出来て大変感謝しています。

スイス日本語福音キリスト教会 ヘス明美

6、シュトゥットガルト日本語教会・三輪愛博（よしひろ）牧師が離任され、11月に次女のご家族がお住まいのベルリンに引越されました。障害者施設でのお働きに加え、教会における牧会の任にあたってられました。長年の人と主のための尊いお働きに心から感謝いたします。後任の浅野康牧師のご挨拶を6ページに掲載いたしましたのでお読みください。

7、オーニングラー宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師、マルティン・フィリップ祐子宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会パルターージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”、ローゼンクランツNLが届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。

日出ずる国から

宣教師編

何という特権でしょう！

千葉県は市川市の
ラシェンコ・ベラ宣教師から



短期宣教師担当主事として、今年を振り返ってみると、私の心は感謝の念でいっぱいになります。外国から来た20人の若者が、一週間から1年の間、

日本に滞在しました。彼らは賜物によって、多様な奉仕に頑張ってくれました。教会を手伝ったり、英語を教えたり、写真やビデオを撮ったり、子供たちの世話をしてくれました。

彼ら若者グループに加えて、今年は六つのチームが来日しました。例えば、7月にイギリスからやってきた”キッズゴスペルチーム”は、小学生にゴスペルを教え、最後に、親たちや友達をコンサートに招待しました。



キッズゴスペルチーム

また、二つのチームは北海道で”祈りの旅”をしました。あるカナダの神学校からの6人の学生は、弘前にある開拓教会で奉仕をしてくれました。その短期宣教師らにとって、多くの場合、日本は未知の新しい国であるので、言葉の壁や異なる文化から来る悩みもありますが、喜びを感じることも沢山ありました。特に、信徒たちとの交わりや求道者との付き合いは、外国からやってきた若者たちにとって忘れられない素晴らしい経験です。そのうち数人は長期間の宣教師として日本に戻ることに祈っています。

私はコーディネーターとして、全世界から日本で主に仕えたい人たちを歓迎するという役目が与えられています。何と素晴らしい特権でしょう！神の国の建設がそれら短期宣教師の働きを通して前進するように心から願っております。

神の国は誰のもの

東京都は町田市の
クンツ・プリスキラ宣教師から



スイスJEGの皆さん！いつも日本で働く宣教師を覚えてお祈り下さりありがとうございます。

私は”JOY KIDS”というグループを率いていますが、日本

で子供達を招き、福音を伝える働きは年々難しくなっているように感じます。一番効果的なのは、日本人の働き手が、お母さんたちを通じて子供を招くことです。いままでは、お母さんは、喜んで子供をキッズグループにやってくれました。その時間をお母さんたちが自由に使えるからです。でも、最近のお母さんたちは、子供を一人で家の外にだすことにとっても臆病になっています。多分、子供を巻き込んだ犯罪事件が増加しているからでしょう。

どうか、子供達がイエス様の福音を聴くことが妨げられることがないよう、みなさまもお祈りください。



子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。

マルコ10:14

私は、来年の4月から1年間、スイスやドイツに滞在します。支援して下さる教会や個人の方々を訪問したりして、様々なところで日本での宣教の働きについて報告をいたします。みなさまにお会いできますことを今から楽しみにしています。



OMF Youth Focusの曲がり角

東京都は江東区の
オーニンガー・マックス&玲子宣教師から



全知全能の主の御名を賛美します。

いつもお祈りに覚えてくださりあ

りがありがとうございます。私たちは6か月間のデピュテーションのために、8月にスイスに帰ってきました。「日本の教会を若者でいっぱいにして、教会を元気にしよう！そのためには、青年による青年の伝道が必要だ」と、青年伝道のビジョンに取り組み始めてから、来年でもう10年になろうとしています。

この間、Youth Focusのビジョンに無くてはならない若い働き手が与えられ、少しずつですがYouth Focusらしい働きができるようになりました。Youth Focusが目指すのは、「パートナー教会の組織の中には入らないが、パートナー教会のために働く」という、パートナーシップ関係の働きです。パートナーとは、互いの働きを自分たちの働きのように重荷を持って支え合う関係です。ですから、何より

もこの働きに必要なのは、Youth Focusとパートナー教会との信頼関係です。



ところが、5年前に私たちと共にGCT（ゴスペルチャーチ東京）を始めた波多夫妻のYouth Focusへの理解が深まらず、新しいパートナー教会を探すという可能性が出てきました。

この10年間、何度も試練の時があったものの、不思議とここまで導かれてきました。それは、これが神さまが始められた働きだからだと確信しています。



宣教師編

私たちは2018年の夏に引退の時を迎えます。それまでたった2年半ですが、Youth Focusの働きを理解し、パートナーとして共に重荷を負ってくれる日本のクリスチャン牧師/教会が与えられるよう、お祈りいただけたら幸いです。



福音を携えて！
石川県は内灘の

マルティン・フィリップ&祐子
宣教師から



沢山の人々との出会いや様々な経験をさせてくださいました。

フィリップは通信担当者として、季刊誌の発行、OM日本のウェブサイトやフェイスブックページの管理、年間報告の作成、祈祷課題の共有、印刷物の作成、情報発信などの仕事をしています。普段はオフィスチームとして事務局で働いていますが、ミニストリーチームがイベントやミニストリーをする時に一緒に行って参加したり、写真を撮って記事を書いたりもします。最近では地元のミッション系大学での活動に参加することも何度かあり、日本のノンクリスチャンの若者たちと出会う機会が与えられて感謝

です。祐子は勇也の世話に追われていますが、自宅で季刊誌の翻訳などを行っています。また任期を終えて帰国した日本人宣教師やこれから宣教地に赴く人たちと話すことが大きな喜びです。



私たちの願いは、更に多くの日本人が福音を携えOMを通じて世界中へ出ていくことです。現在その目標のために働く日本人事務局スタッフが非常に少ないので、時にかなって最適な人が与えられますよう、一緒にお祈りしていただけたら幸いです。

福岡でも始まる開拓伝道

宮崎県は宮崎市の

ローゼンクランツ・クリスチャン
&直美宣教師から



私たちの救い主を賛美します！いつもお祈りを感謝します。日本においては最も人々の心が福音に対して開く季節ークリスマスが近づいてきました。このチャンスを用いつつ、良い時も悪い時も、福音を伝えたいと思う日々です。

10月はスイスのWiler (ベルン) のYouth With A Mission、9名の頼もしいチームを迎えて、丸1か月の間一緒に礼拝し、また大学やモールにと伝道に出かけました。彼らを通してやって来た、福音をまだ一度も聞いたことのない人々が、福音を聞いてイエス様を受け入れ救

われていく姿は、チームのメンバーにとっても新鮮だったようです。

11月1日には6人の洗礼式が行われました。この機会に、海外からのインターンがもっと来ることができるように、道を整えていきたいと思いま



一人の若者の救霊が！

す。さて、ついに来年の4月から福岡での開拓が始まります！宮崎の教会もこの5年間で、リーダーシップがまだまだ若いものの成長しつつあり、この時まで祈ってきた開拓の一步を踏み出すことになりました。私たち家族+4名でスタートします。

今場所を探している途中ですが、なるべく中心に近い場所を借り、願わくは固定の場所で



宮崎大学のバイブルカフェ

できればと祈っています。宮崎の教会をしばらくは監督しつつ、福岡ではゼロからのスタートです。すべての面でチャレンジがありますが、覚えてお祈り、サポートいただけたら感謝です。

2月にはスイスに行きますので、その時に皆様にお会いできるのを楽しみにしています！



10月末に開かれた伝道集会のあとみんなで撮った集合写真です。新しい人たちもたくさん導かれました。神様に感謝します



GRCが人生の転機に

栃木県は宇都宮市の

矢部晶宏兄から



9月20日から23日まで山梨県の富士吉田市で開催されたGRC

www.globalreturnees.orgには、全国から400人を超える熱いクリスチャンたちが集まりました。このGRCに僕ら家族が参加できたのは、奨学金とスイスの友人の経済的サポートのおかげです。

会場への道中、日本とスイスの国旗が描かれた電車が目の前を過ぎ去りました。そして、カンファレンスで語られたメッセージは、10年前に僕がスイスで語られた聖書箇所でした。



眠っていたヨーロッパ宣教の思いが内側から熱く湧き上がってくるのが分かりました。この10年、自分の召しを何度も疑い、心に穴が空くような経験をし、他の道を歩もうと何度も思いました。自分の弱さゆえ、宣教師として仕えるのは無理だと何度も泣きました。しかし、主が恵みと憐れみを持って、僕と妻をここまで導いてくれたことに、ただただ感謝でいっぱいでした。



翌日早朝、Quiet time walk中に賛美していると、1つの御言葉が心に浮かびました。「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たち主イエス・キリストにある永遠のいのちです。」(ローマ書6章23節) 本来僕自身が受けるべき罰と死、それをイエス様が十字架上で身代わりになってくださ

た。その愛と憐れみのリアリティーに深く包まれ、涙がこぼれてきました。救いに預かっている幸せと喜びに浸っていると、「これを伝えに行ってくれるか?」と小さな声が心の中にやってきました。車や歩行者が通り過ぎるなか、ハッと立ち止まり、しばらくの沈黙を経て、「はい、わかりました」と答えた瞬間、溢れてくる涙を抑えることができませんでした。

また、カンファレンスから数週間後、GRCでの体験を一切シェアしてない母教会の牧師先生からも、僕ら夫婦は将来ヨーロッパで働くのが適しているのではと仰っていただきました。GRCは、人生のターニングポイントとなるカンファレンスでした。

スイス・ドイツにある滅びに向かっていく魂を主に救っていただくために、主が僕ら家族に望まれていることは何なのかを伺い、御声に聞き従いながら、具体的に動き出そうと思います。小さな家族ですが、僕らをお祈りに覚えていただけると嬉しいです。よろしく願いいたします。

皆さまの上に主の祝福が豊かにありますように



ヨーロッパの日本語教会から

神様の敷かれた伏線

シュトゥットガルト日本語教会は
浅野康(やすし)牧師から



初めまして! 浅野康と申します。2015年9月、三輪愛博牧師の後任として

シュトゥットガルト日本語教会の牧師として就任しました。妻と3人の子供がいます。

13年前、東京の神学校を出て、愛知県片田舎の教会の牧師になった時、まさか将来、海外に出て牧会をすることに

なるとは思いもしませんでした。でも、今考えると、神様の敷かれた伏線が確かにあったと思わされます。

1、大学卒業後、アメリカ西部に放浪の旅に出ました。この時、人生の真理に対する飢餓感が生まれ、帰国後、真面目に聖書を学ぶようになり、信仰を持つことが出来ました。日本人の救いにとって、海外経験が大きな影響を果たし得ることを身を以て経験しました。

2、牧師3年目にドイツ人の妻と結婚しました。以後、共に7年半、日本の教会で奉仕する

ことになりましたが、結婚の時点で、「いつかは欧米に行くことになるかも。」と感じていました。

3、牧会した名古屋教会は帰国者集会の会場ともなっており、時折、参加しました。また、世界宣教局という宣教団体の実務委員として、シカゴに日本人家族を邦人伝道のために遣わす奉仕をしました。そのような経験を通して、私自身、海外邦人伝道に備えられました。

以上です。いささかこじつけた感じがなくもないですね(笑) シュトゥットガルト日本語教会の今後の成長のために、祈って頂けると感謝です。また、来年のキリスト者の集いでは、喜んで教会として協力したいと思っています。それを通して、お互い交わりが深まるといいですね!



教会堂の移転のお知らせ

London JCE は、11月22日より、新しい場所で礼拝を捧げます。待降節を前に、新たな場所で、心鎮めて、イエス様の御降誕を迎えることができる喜びに満ち溢れています。みなさま、ロンドンのおいでの際は、どうぞお立ち寄りください。



Christ Church
Kensington
Victoria Road,
Kensington,
London W8 5RQ

最寄り駅 Gloucester Road (Piccadilly, Circle, District lines)
<http://www.christchurchkensington>